

脱炭素はだの市民会議からの市民提案



## 記念写真



2025年11月22日「脱炭素はだの市民会議」を終えて  
参加市民、主催者、専門家、ファシリテーター、事務局スタッフ等集合写真

## 目次

I. はじめに	2
II. 脱炭素はだの市民会議からの市民提案	3
「住まい」における提案	4
「移動・交通」における提案	9
「食と消費」における提案	14
「地域資源」における提案	19
III. 脱炭素はだの市民会議の概要	25

## I. はじめに

「脱炭素はだの市民会議」は、神奈川県が2023年度から進めている県内の地域主体による地域脱炭素化の取組みを促進する施策で、2025年度「若年者・地域向け脱炭素普及啓発事業」の一環として実施されました。

秦野市は、2021年2月に2050年ゼロカーボンシティを宣言、2022年4月には「秦野市地球温暖化対策実行計画」を決定、2030年に中間目標を設定して、段階的に対策を強化・推進しています。同計画では、2024年度までを計画の普及・定着を目指す土台形成期とし、2025年に中間評価を行い、取組の進捗や課題を明らかにし、次のステップを目指しています。脱炭素はだの市民会議は、この中間評価に関連して開催されました。

気候変動は、幅広い人間活動に起因し、将来世代にも深刻な影響を及ぼす問題です。この問題の解決には、それを自分ごとと捉え、市民、事業者、行政の誰もが主役となって取り組むことが求められています。こうした観点から、この市民会議は脱炭素社会の実現に向け、普通の市民が自ら、そして地域で何をすべきか話し合い、行動や施策を広げていくことをめざす「気候市民会議」の方法を基本に実施されました。

全4回の市民会議は、秦野市と、専門家、地域組織、市民で構成される「脱炭素はだの市民会議実行委員会」の共催により実施、運営され、事務局は一般社団法人環境政策対話研究所が担当しました。

脱炭素はだの市民会議の主役は、10代から70代までの無作為抽出で選ばれた秦野市民です。年齢、性別、居住地域から秦野市のミニ・パブリックスとなるよう選出された市民は、専門家や実務者から気候変動や市民生活との関連などについて情報提供とアドバイスを受け、脱炭素社会の実現に向けた市民の行動、地域社会の取組みや政策について、熱心に議論を重ねました。こうして取りまとめられた市民提案は、市民生活に関連するテーマを中心として、森や地下水など豊かな資源に恵まれた秦野市の地域特性を生かした具体的取組みのアイデアが盛り込まれています。

この市民提案は、秦野市地球温暖化対策実行計画の中間評価の参考とされ、今後の脱炭素政策に活かされます。また、地域社会にも発信し、地域における官民協働の取組みの具体化につながるよう、フォローアップ活動に発展していくことを期待します。

脱炭素はだの市民会議の主役として参加され、議論いただいた参加市民の皆様に深く感謝申し上げます。また、会議での情報提供・アドバイスをいただいた専門家の皆様、議論の活性化を支援いただいたファシリテーターの皆様に礼申し上げます。そして、会議の円滑な実施にご指導、ご協力いただいた神奈川県、秦野市の皆様、事務局スタッフの方々に心からお礼申し上げます。

2026年1月  
脱炭素はだの市民会議実行委員会 委員一同

## Ⅱ. 脱炭素はだの市民会議からの市民提案

市民提案は、全4回の市民会議の中で「住まい」、「移動・交通」、「食と消費」、「地域資源」の4つのテーマで話し合わせ、最終案166件（40項目とその枝番126件）に取りまとめられました。

その過程で、複数のテーマで共通して出された提案は、いずれかに移動・統合しています。また、その関連性がわかるように、提案の移動元にも★をつけて記載しています。そしてその中でも秦野の地域資源にかかわる提案には、秦野市くずはの家マスコットキャラクター「もりりん」※を付けました。

※秦野市くずはの家マスコットキャラクター「もりりん」



会議終了後、参加市民がどれくらい個々の提案を支持しているかを表明する投票を行いました。評価スケールは、「7積極的に推進すべき」～「1まったく推進すべきでない」の7段階としました。

以下に掲載しているのは、投票の結果、肯定的な意見（7～5）が半数以上あったものです。各テーマの後ろに投票結果を示すとともに、肯定的意見が半数に満たなかった提案も、参考意見として記載しています。（ただし、提案で半数の支持が得られなかったものうち、その下の枝番レベルの提案がある項目に関しては本文に残し、その旨を付記しました。） その結果、提案は162件（38項目とその枝番124件）となりました。

## 「住まい」における提案

### ●断熱リフォーム

#### 1. 市民は、自宅の断熱性能を改善する

<そのために…>

##### 1-1. 市民は、自分で「断熱」について調べる

- ・アプリ事業者は、工務店やハウスメーカーと協力して、築年数や建物の種類、値段などが比較できるよう、断熱材の種類や構造のサンプルを作り、それをチラシやスマホアプリ、ウェブサイト等で簡単に情報を見られるよう断熱性能を可視化する
- ・工務店やハウスメーカーは、暑さ、寒さやリフォームしたときの快適さ(性能)を体感できる機会を提供する(すぐに購入予定がなくとも気軽に訪問できるモデルハウス/住宅展示場にする)

##### 1-2. 市と工務店は、連携して未来型のモデルハウスを作り気軽に体験できるようにする

##### 1-3. メーカー等は、DIY 教室を開催し、市民が二重窓や断熱カーテンを自分で作れるように紹介する

- ・ホームセンターや工務店などの事業者、教育機関は、協働して断熱 DIY 教室を開催する
- ・ホームセンターは、断熱 DIY 用具のレンタルサービスを提供する
- ・市は、格安で断熱 DIY 用具レンタルを市民が借りられるような助成制度を提供する
- ・市は、適切な断熱 DIY 教室の情報提供をバックアップする(誤情報でないことを後援)



##### 1-4. 建材メーカー、ホームセンター、工務店などは、安価で高性能な断熱 DIY で使える断熱材を開発し、紹介する

##### 1-5. 市は、断熱改修に対する補助金制度を作る。その際、制度を通年で使えるように、余裕のある予算作りをする(2月3月まで通年で使えるような制度に)

### ●太陽光発電の導入を増やす

#### 2. 市民は、まず自分の家の使用電力を知り、太陽光発電の設置の検討につなげる

<そのために…>

##### 2-1. 市民は、個人の電力消費量が用途別に可視化できるアプリを使ったり、HEMS※を設置したり、使用電力の計測が可能なコンセントを使ったりして、常に電力を見られるようにする

※HEMSとはホームエネルギーマネジメントシステムの略で、家の中の家電などをインターネットでつないで家のエネルギー利用を見える化するシステムの事です

##### 2-2. 事業者は、スマートメーターから取得できる情報をより見やすくする

##### 2-3. 市や事業者は、市民が電力使用量の情報を見るよう呼びかける

### 3. 市民は、自分の家の屋根に太陽光発電を設置する

<そのために・・・>

#### **3-1. 市民は、太陽光発電設置に関する補助金制度を知る**

- ・市民は、市民同士で知る機会を設ける(すでに設置している人が未利用の人に市民講師として伝える)
- ・事業者は、市民に太陽光発電のメリット・デメリットを伝える
- ・行政と店舗は、スーパーやじばさんずなどで、無人の展示や周知の機会をつくる
- ・事業者は、市民が気軽に情報収集や申し込みが出来るよう、申し込みサイトを作り、二次元バーコードを展開する

#### **3-2. 市民は、神奈川県補助金制度を活用した、0円ソーラー制度を利用する**

#### **3-3. 工務店やハウスメーカーなどは、個人が勉強しなくても制度を利用できるよう、制度を説明できるようにするとともに、申請書類の作成に協力する**

- ・市や県などの行政機関は、申請手続きを簡略化する

#### **3-4. 市は、0円ソーラーを補完する秦野市の補助の仕組み(0円ソーラーでかかる経費を補完するもの、あるいは0円ソーラー以外に自己所有の太陽光発電設置のための補助金制度など)を作る**

- ・市(または民間団体)は、相談窓口を設置する(コンサルのように提案したり等)

#### **3-5. 太陽光パネルの開発事業者は、デザインやサイズ感が導入障壁とならないよう、魅力的、目立たないデザインや多様で気軽に設置できるサイズ、耐久性にすぐれたパネルを開発・販売する**

- ・太陽光パネルの販売事業者は、太陽光発電導入のインセンティブ(お友達紹介キャンペーンの実施や割引等)を付与する

※上記のうち「3. 市民は、自分の家の屋根に太陽光発電を設置する」は、投票の結果、半数の支持が得られませんでした。

### 4. 市民は、引越し時などには太陽光発電が設置されている家・アパート・マンションを選んで住む

<そのために・・・>

#### **4-1. 不動産業者等は、太陽光発電が設置されている物件の情報を、市民をはじめ市外からの転入予定者などに見える化する**

#### **4-2. 物件所有者や不動産事業者等は、市民がそのような賃貸物件を選べるよう、太陽光発電を載せた賃貸物件を増やす**

### 5. 市民は、太陽光発電をもっと身近に利用する

<そのために・・・>

#### **5-1. 市民は、太陽光発電がついている施設を利用する**

- ・事業者は、より多くの施設に太陽光発電を導入する
- ・災害時に備えて、市と事業者は、協働で学校へのパネル設置、公共施設や市民がよく行く場所・施設への太陽光発電の設置を一層進める
- ・市と事業者は、市民交流のためのイベントなどの屋外会場への供給も可能にする



★太陽光発電を搭載した車などの提案 →移動・交通7(EVの技術革新に期待)に統合

★市民、事業者、市は、地域で共同太陽光発電を導入する提案 →地域資源 12-3(地域電力につながり得る共同太陽光パネルの導入)に統合

## ●再エネ電源への切り替え

### 6. 市民は、再エネ電源へ切り替える

<そのために…>

#### 6-1. 市民は、再エネ電源を積極的に契約する

- ・市民は、再エネ電源への正しい知識を積極的に学ぶ
- ・電力会社/新電力は、市民の不安や懸念を払しょくし、切り替えのメリットを感じられるような、正確かつ、わかりやすい情報を発信する。CM等目につきやすい広告を出す
- ・電力会社/新電力は、再エネ電源の利用料を下げる。あるいは、電力料金は同等で契約時キャンペーンなどで少しお得にする
- ・事業者・団体等は、口コミサイト等による先行事例の紹介を行う
- ・事業者・団体等は、電気料金の一括シミュレーション(見える化)ができるサイトをつくる
- ・市は、住民及び転入者に向けて再エネ電源への切り替えを呼びかけ、信頼できる情報を発信する

#### 6-2. 市や各学校法人等は、再エネ電源の意義などについて学校での学びを進める

#### 6-3. 事業者・団体等は、小さな電力会社の信用保証の仕組みをつくる



★地域電力による再エネへの切り替えの提案 →地域資源 12-3(地域電力につながり得る共同太陽光パネルの導入)に統合

## ●地元産木材の活用

### 7. 市民は、自宅の新築やリフォーム時に秦野や神奈川など地元産の建材を使う

<そのために…>

#### 7-1. 市は、地元産材を使った場合の助成金制度についてもっと広報する

## ●省エネ・エコライフの実践

### 8. 市民は、省エネ・エコライフの実践を促進する

<そのために…>

#### 8-1. 市民は、様々な省エネアクションを実践する

- ・省エネ家電への買い替え
- ・断熱カーテン・遮光カーテンの使用
- ・エアコン使用時の扇風機併用
- ・エアコン室外機に日除けをつける
- ・再エネ電力による床暖房を設置する
- ・夏季には自宅周りの緑を増やす

## 8-2. 事業者は、割引やポイント付与、お友達紹介サービスなどによって市民の省エネ実践を後押しする

- ・販売店等は、断熱カーテン購入者に「エアコン日除け器具」の割引券を配布
- ・販売店等は、断熱商品の購入に対してポイント等を付与する
- ・工務店等は、(再エネ電力による)床暖房の設置者に対してお友達紹介のサービスを供与する
- ・各事業者は、自分の店舗で緑を増やすなど、市民のモデルになる実践をする

## 8-3. 市と民間団体は、市民の省エネ・エコライフスタイル促進のための広報や啓発を行う

- ・詐欺や悪徳業者との識別ができるよう、省エネ家電の買い替えや工事などの相談窓口を通じて啓発する
- ・省エネ家電への切り替えに役立つ情報を広報する
- ・高齢者向けに回覧板に脱炭素のアクションなどを知らせるコラムなどを載せる(動画などよりも文字情報の方がじっくり読んでもらえる)

※優良な事業者のリストとしては、環境省のエコ・ファースト制度(環境省が認定して、エコ・ファースト・マークを使える)が知られています

<https://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/>



★市と事業者は、市民が集まったり、時間を潰せたりするクールシェア/ウォームシェアの場所を増やす提案 →地域資源 5-2(クールシェア/ウォームシェアの場所を増やす)に統合

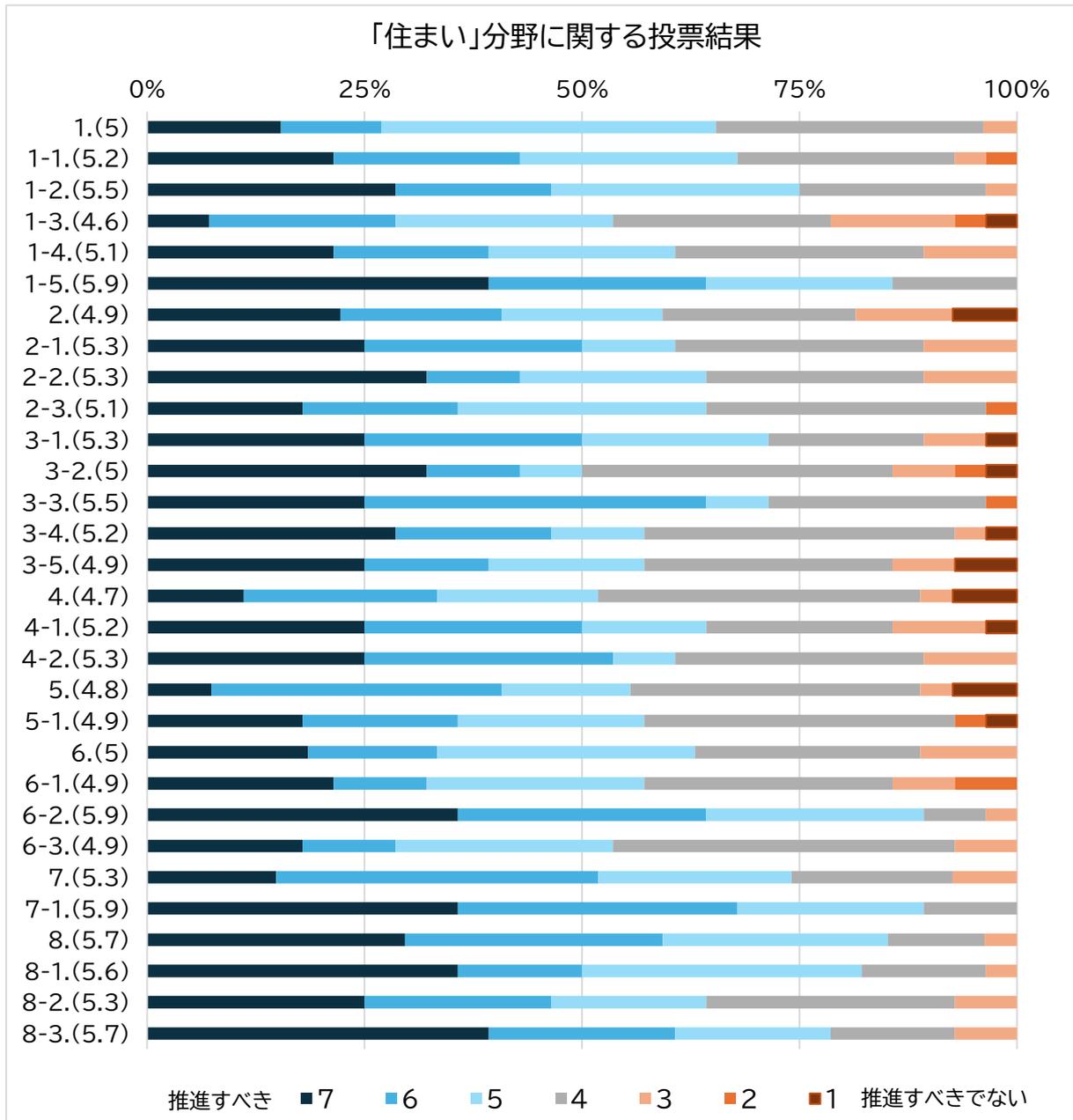


★市民はコンポストづくりを実践する提案 →食と消費8(生ごみ減らし、たい肥作りに参加)と地域資源 10(生ごみを資源として生かす)に統合

※参考:投票の結果、半数の支持を得られなかった提案(1件)  
(太陽光発電の導入に関連)

a. 市民は、自分の家の屋根に太陽光発電を設置する

【投票結果】 (n=28)



## 「移動・交通」における提案

### ●公共交通機関の利用促進

#### 1. 市民は、バスをもっと利用する

<そのために…>

##### 1-1. 事業者は、ルート、本数を利用者数によって適宜見直し、利便性を向上させる

- ・バスの運行数を増やす、夜間の本数を増やす
- ・秦野の主要部(商業地)を通るバスがない/少ないので、国道にもっとバスを通す
- ・路線、時間帯の選択と集中 通勤時間帯の本数を増やす
- ・事業者は、若い人も気楽に使えるお買い物サポートバスを走らせる

##### 1-2. 事業者は、バスを利用しやすくするために、各種案内を充実させる

- ・ガイドマップや、車いす利用者向けの乗車マニュアルなどを作成する
- ・端末、二次元バーコードに不慣れな人もいるので、わかりやすい案内看板を増やす
- ・バス・アナウンスの魅力向上・エンタメ化を図る (街の耳寄り情報、クイズ等)
- ・お祭等のイベント時のバスの迂回ルートを分かりやすく提示する

##### 1-3. 事業者は、バスの利用を促進するために料金などで工夫する

- ・バスに乗るとポイントが付与される等のしくみづくり  
(移動先のスーパーでの買い物などに使える、スーパーの売り上げに貢献)
- ・バスの高齢者バスを作る
- ・バスの子どもバスを期間限定で無料・割引にする

小田急バス・電鉄は、「子育て応援」として、小児用 IC カード利用で子ども運賃より割引している。神奈中バスも、小児用 IC カード利用で割引している。

##### 1-4. 市は、バスを利用しやすい町づくりを考え、都市計画を見直すべきではないか

- ・バス最優先道路を設ける
- ・市は、公共交通について、駅前等多くの人の目につく場所で電子広告を行う

##### 1-5. 市は、交通が空白・困難な地域で、コミュニティ・タクシーの運行を検討する

##### 1-6. 事業者協働で、バスの利用者が少ないルートは、コミュニティ・タクシーとの連携を図る

#### 2. 市民は、コミュニティ・タクシーをもっと利用する

<そのために…>

##### 2-1. 事業者は、コミュニティ・タクシーの認知度が低いので、わかりやすく PR する

- ・誰でも使えるように、利用方法等を目につくところに掲示する
- ・市は、市の地域情報紙等に利用方法を掲示する

##### 2-2. 事業者は、(Uber やタクシーGo のように)スマホアプリ等から予約できるなど利便性を上げる

## ●自転車利用・徒歩の促進

### 3. 市民は、自転車をもっと利用する

<そのために・・・>

#### 3-1. 店舗は、駐輪場を整備する

- ・駐輪場を増やすことで、シェア・サイクルも可能となる
- ・駐輪場の空き状況が、離れたところからもわかるようにする

#### 3-2. 市と事業者は、自転車を利用すればお得になる仕組みを作る

#### 3-3. 市と事業者は、地域でシェア・サイクルを広める

- ・市は、シェア・サイクルのステーションを増やして利便性を上げる
- ・市民は、電動自転車を利用する
- ・事業者は、地域で、電動自転車のシェア・サービスを行う
- ・事業者は、電動自転車の充電スタンドを拡充する
- ・OMOTAN コインで、シェア・サイクルのサービスを利用できるようにする

#### 3-4. 市は、中長期的に、自転車で走りやすい道路を整備する

- ・地域で、自転車で走りやすい道マップを作り、地産地消や環境によい店を載せる
- ・自転車で安全に走れるように、レーンづくりなど道路を整備する

#### 3-5. 市は、坂道が多い地域向けに、電動自転車の購入に補助する

### 4. 市民は、歩く習慣を身につける(健康意識を高める)

<そのために・・・>

#### 4-1. 市は、歩きたくなるような歩道作りを進める

- ・秦野駅から運動公園への歩行レーンが整っており(ウォーキング、ジョギング人気コース)、これに倣ってこのほかにも歩行レーンを整備する
- ・街路樹の管理を徹底する(枝が伸びると危険)
- ・道が暗いところは、街灯を整備する
- ・歩いて楽しくなる道づくりとして、秦野材でベンチを作る
- ・事業者は、地域で、公共施設に木材の椅子を寄付する(名前をおしゃれに入れる。徒歩の休憩に楽しみをつくる)
- ・お祝いの植樹を街の道路沿いに植え、徒歩を楽しむ
- ・歩きたくなるような、景観を意識した歩道をつくる
- ・運動公園など、人がたくさん集まる場所に歩道に関する情報を紹介する場所をつくる
- ・歩くのに安全な歩道を整備する。そのため道路のセットバックが必要な場合に、例えば、秦野材を用いたエコハウスを建てることに補助を行う

#### 4-2. 事業者と市が連携して、徒歩を活かしたイベントを開催する

- ・市と関連事業者／団体は、協働して、徒歩による健康増進モデルを紹介する  
(例:徒歩によるダイエット成功者を見える化し、ポイントを付与する)
- ・市と関連事業者／団体は、協働して、秦野ミステリーツアー等を実施して徒歩での観光を促す(歴史ツアーは既にあり)
- ・市と関連事業者／団体は、秦野市民だけでなく、近隣の市民も参加できる「はだのウォーキング大会」などのイベントを開催する
- ・市と関連事業者／団体は、協働して、さくらマップ、あじさいマップを作り、徒歩を促す

4-3. 事業者は、徒歩での買い物時に、荷物を配達してくれるサービスを提供する

4-4. 事業者は、徒歩を利用したゲームを開発する

4-5. 事業者は、徒歩によりポイントが貯まるアプリを展開する

- ・徒歩を利用した割引ポイントサービス
- ・徒歩の日、自転車の日をつくり、参加したらポイントがもらえるようにする
- ・市民の日、たばこ祭りに徒歩・自転車で来る人はポイントがもらえるようにする
- ・歩いて来る温泉入浴客には料金を安くする

## ●自家用車の利用を減らす

### 5. 市民は、買い物での自家用車利用を減らす

<そのために・・・>

5-1. 事業者は、自動車移動販売を増やす。

- ・市は、移動販売車利用のメリットを市民に知らせる
- ・市は、移動販売事業者に補助する

5-2. 交通が不便な地域で、買い物などの支援を行う

- ・市民は、買い物支援隊(ボランティア、1回100円)を利用する
- ・市民は、生協のような宅配システムを利用する
- ・事業者は、買い物・役所・病院用のコミュニティ・バスを走らせ、路線沿いで、乗る人に便利な場所でも止まるようにする

5-3. 市は、コミュニティ・バス、コミュニティ・タクシーの乗り方を分かりやすくする

## ●EVに切り替える

### 6. 市民は、EVを購入する

<そのために・・・>

6-1. 事業者や市は、市民がEVを購入しやすくなるよう支援する

- ・事業者は、燃料代(電気)が安くなるような車を作る
- ・市は、EV補助金を作る(国の補助金あり)

6-2. 事業者は、EVタクシーを増やす

6-3. 市は、公用車をEVに切り替える

6-4. 事業者は、EV充電施設を増やし、EVを使いやすくする

- ・事業者は、市民の生活動線に対応したEV充電施設を増やす

6-5. 市は、市内や学校等で子供のころからEVのメリット・デメリットの教育を行う

※上記のうち「6.市民は、EVを購入する」は、投票の結果、半数の支持が得られませんでした。

### 7. EVの技術革新に期待する

※参考:投票の結果、半数の支持を得られなかった提案(4件)

(自家用車の利用を減らすに関連)

b. 市民は、置き配を徹底する

- ・事業者は、集合宅配 Box を増やす
- ・市は、集合宅配 Box 設置の際に補助する。

**c. 市民は、カーシェアリングを利用する**

- ・事業者は、相乗り配車アプリを開発する
- ・市と事業者は、地域で、より使いやすいカーシェアリング・サービスを検討・実施する

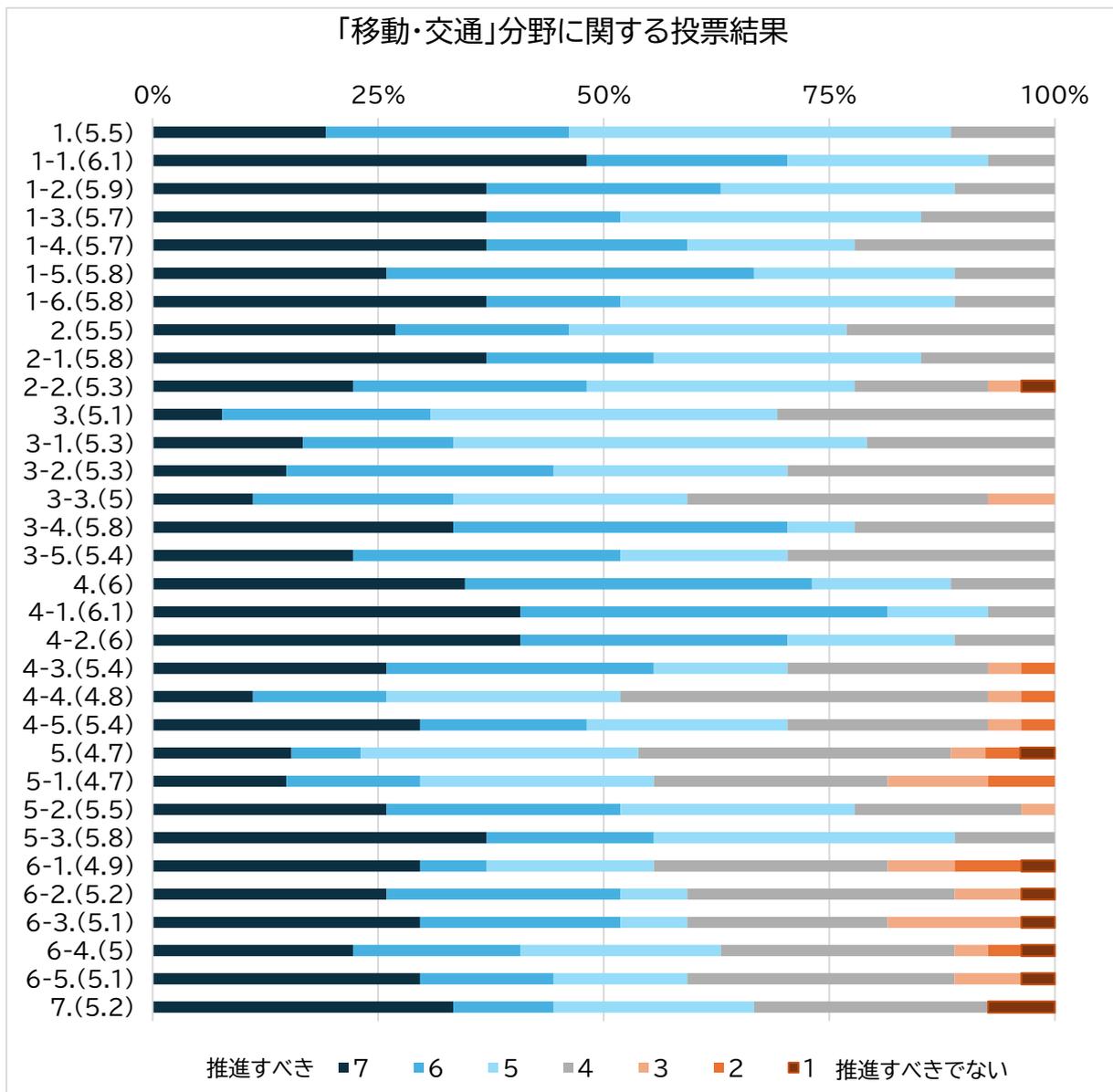
**d. 市民は、旅行でも自家用車の利用を控える**

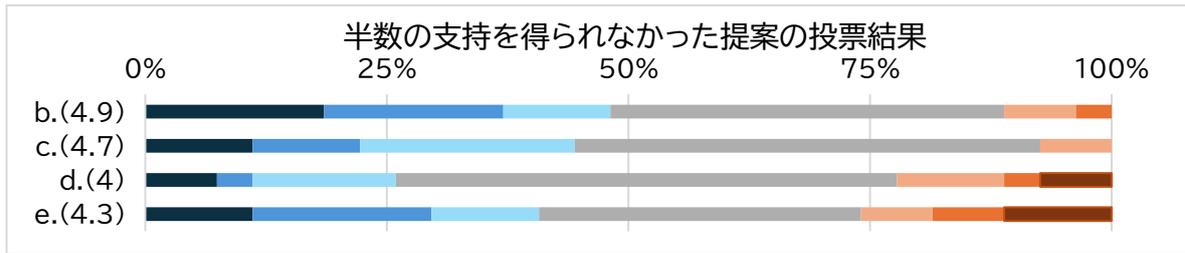
- ・旅行会社には、自家用車でなく、往復は公共交通機関を使い、必要なら現地でレンタカーを使う旅行プランには割引をしてもらう

(EVに切り替えるに関連)

**e. 市民は、EVを購入する**

【投票結果】 (n=27)





## 「食と消費」における提案

### ●カーボンフットプリントの低い食事

#### 1. 市民は、カーボンフットプリント(CFP)の低い食品※を選択・購入する

※食品における CFP(カーボンフットプリント)は、

- ・動物性の食品(特に牛肉)よりも、植物性の食品
- ・季節外れの食材(温室での燃料消費が大きい)よりも旬の食材
- ・遠くから運んでくる食材(運搬での燃料消費が大きい)よりも、地元食材などが低くなります。

<そのために…>

##### 1-1.市民は、スーパーなどに、CFP の低い商品を売っているか、どこの売り場にあるかを問い合わせ、品ぞろえするよう働きかける

・市民は、農水省の「見えるラベル」などの表示を見て購入する

##### 1-2.お店は、CFP の低い商品の購入を消費者に働きかける

・レシートに CFP 関連情報を載せる、OMOTAN コインで推奨する  
・例として JA(じばさんず)、スーパーマーケット  
・事業者は、農水省の「見えるラベル」の仕組みに参加する  
・事業者は、ウェブショップで地場野菜を購入できるようにする

##### 1-3.市民は、CFP の低い食品に関する学習を行う

##### 1-4.市や事業者は、CFP の低い食品について広報を行う(広報はだの、タウンニュース、健診のお知らせ、イベント、シンポジウム、公民館事業などで)

##### 1-5.市と教育委員会は、小中学校や幼稚園等の教育内容及び給食に、CFP の視点を取り入れる

・CFP の低いメニューの試食会を、保護者や地域の人向けに開催する

##### 1-6.事業者(お店や飲食店)と市が協働して、CFP の低い食事メニューやその見える化を推進する

・学校や市、地域の団体は、イベントやお祭り、「みんなの食堂」などで CFP の低いヴィーガン食※などを提供し、認知度を向上させる

※ヴィーガン食:肉や魚、卵、乳製品といった動物性食品を一切食べない完全菜食のこと

・市民は上記活動にボランティア参加し、好循環を生み出す



#### 2. 市民は、「じばさんず」や朝市、スーパー、無人販売所などで旬の食材・地元の食材を選ぶ

<そのために…>

##### 2-1.市民は、規格外の野菜も気にせず選び、流通量を増やすことに協力する(畑での食品ロス削減にもつながる)

・JA やスーパーは、試験的に規格外野菜を販売する。  
・事業者は、OMOTANコインで規格外食品を推奨したり、サービスしたりする

- 2-2.スーパーや「じばさんず」は、旬のメニューを紹介する。
- 2-3.事業者は、地元の市民が購入しやすいように、「じばさんず」のようなお店をたくさん作る
  - ・自転車や徒歩で行ける2号店、3号店を希望
- 2-4.市は、無人販売所マップを作り、周知する
- 2-5.市は、朝市(マルシェ)などの開催頻度が増やせるよう支援する
  - ・休日だけでなく、可能な頻度で平日の開催も希望

## ●食べ物を大切にする

### 3. 市民は、食品ロスを減らす

<そのために・・・>

- 3-1.市民は、量り売りを利用するなどし、食料を必要な量だけ買う
- 3-2.事業者は量り売りを行う
  - ・スーパーは、持ち込み容器(タッパーやマイ酒瓶)で量り売りができる体制を作る
  - ・飲料メーカーは、ドリンクバー方式(中身だけ入れられるサービス)の自動販売機を普及させる
  - ・市は、(量り売りを推進する)仕組みづくりをして、事業者に協力を要請する
- 3-3.事業者は賞味期限・消費期限の迫った食品を積極的に売り切るとともに、その在り方を見直す
- 3-4.飲食事業者(学校給食提供事業者等)は、AIなどを活用して食品ロスを減らす
  - ・人と人のコミュニケーションも大事
  - ・給食は自分で食べられる量を配膳する等を工夫する
- 3-5.市民と産官学すべてがフードロス「0」化を共有し有言実行するために、市は、市民や事業者が協働して考える場を作る
- 3-6.市民団体(フードバンク運営団体)や市は、フードバンクの拠点を増やす
  - ・市民団体と市は、情報提供を充実させる

### 4. 山の恵みを生かす

<そのために・・・>

- 4-1.事業者は、鳥獣の個体数が多い間は、ジビエを秦野の名産品として売り出す
- 4-2.市は、猟友会のメンバーが増えるように支援する

### 5. 市民は、「食と健康」「農と環境」について認識を深める

<そのために・・・>

- 5-1.市と教育委員会は、私たちが当たり前には享受している綺麗で美味しい水、米、農作物は、実は世界では当たり前ではないこと、食物のありがたみ、農家の方へのリスペクトを認識するよう、教育課程に取り入れる。
  - ・幼少期から「もったいない」教育を推進する
  - ・学校では、農業体験を定期的に行う

## ●環境に良い消費行動

### 6. 市民は、洋服や日用品を大切に、長く使う

<そのために…>

#### 6-1.市民は洋服をリペア(修理)して長く使う

- ・市民・事業者・団体等は、洋服を直してくれる／直し方を教えてくれる お店をつくる
- ・市は、洋服を直してくれる場所を市民に知らせる取り組みを強化する
- ・市民・事業者・団体等は、ボタンや生地などのリサイクル品のバザー大会を行う

#### 6-2.市民は洋服や日用品をリサイクルできる場所を活用し、使わなくなったものはリサイクルする

- ・事業者は、子ども用品、介護用品なども扱うフリーマーケットを開催する

#### 6-3.事業者は、日傘、子ども用品、介護用品などのレンタルサービスを提供する



### 7. 市民は、どのような消費行動が脱炭素につながるのかを知り、行動する

<そのために…>

#### 7-1.市民と地域主体は、環境ラベルの種類(や脱炭素につながる消費の方法)を書いてあるシートを作る→市民はそれを冷蔵庫に貼る

#### 7-2.学校は、脱炭素のライフスタイルを家庭科で教える

## ●ごみを減らす

### 8. 市民は、生ごみを減らし、たい肥作りに参加する

<そのために…>

#### 8-1.自治会単位でゴミステーションにコンポストを設置する

#### 8-2.市は、コンポスト普及を促進する助成金を出すとともに、必要に応じてごみの分類ルールを変更する。

#### 8-3.市と市民は、生ごみをどう処理していくべきかをみんなで検討する



### 9. 市民は、ワンウェイのプラスチックの使用を減らす

<そのために…>

#### 9-1.市民は、みんなマイかご、マイバッグを使う

- ・販売店は、マイかごに協賛企業名を入れて安く買えるようにする
- ・市が音頭を取って、マイかご・マイバッグに協賛金を払って社名を入れる企業を募集する

#### 9-2.事業者は、プラスチックトレイをなくす

- ・ビニール袋やジップロックヘシフトする、持ち込みタッパーに入れる、新聞紙で包装する

#### 9-3.市は、プラスチック包装削減店舗の認定制度を設けて、認定店化を推奨する

- ・OMOTAN 認定店のようなのぼりを立てる

#### 9-4.市民は、マイ容器、マイタッパー、マイタンブラー、マイボトル、マイフォーク、マイスプーンを使う

- ・市・自動販売機ベンダー・販売店は、外出先でマイボトルを洗える機械や場所を提供する
- ・事業者は、プラスチックのスプーン・フォークを配らない



**9-5.市民は、商品を買うとき(テイクアウトを含む)、リユース容器を使っている商品やお店を選択する**

- ・市・自動販売機ベンダー・販売店は、リユース容器を使うとポイントがたまる仕組みを期間限定で導入し、リユース容器を広める
- ・市は、たばこ祭りや市民の日などのイベントで、使い捨て容器の代わりにリユース容器を使うと補助金を出す制度を作る

**10. 市民は、ごみの分別、リサイクルに協力し、ごみを減らす**

<そのために・・・>

**10-1.市民は、ペットボトルゴミを削減する**

- ・事業者は、ペットボトルのラベルをはがしやすいようにする

**10-2.市民は、(軽くてかさばらない)マイボトルを利用する**

**10-3.大手飲料メーカーは、リターナブルペットボトルを導入する**

- ・ボトルと洗浄機を開発する

**10-4.市民は、修理やリユースの仕組み※を活用し、粗大ごみを減らす**

参考:もったいない Day

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1504757432626/index.html>

- ・市や地域組織などは、市民がDIYや修理を学ぶ場を作る
- ・市や地域組織は、フリーマーケットとDIYが一緒にできる場を2-3か月に一回開催する(メルカリでなく、みんなで集まる場)

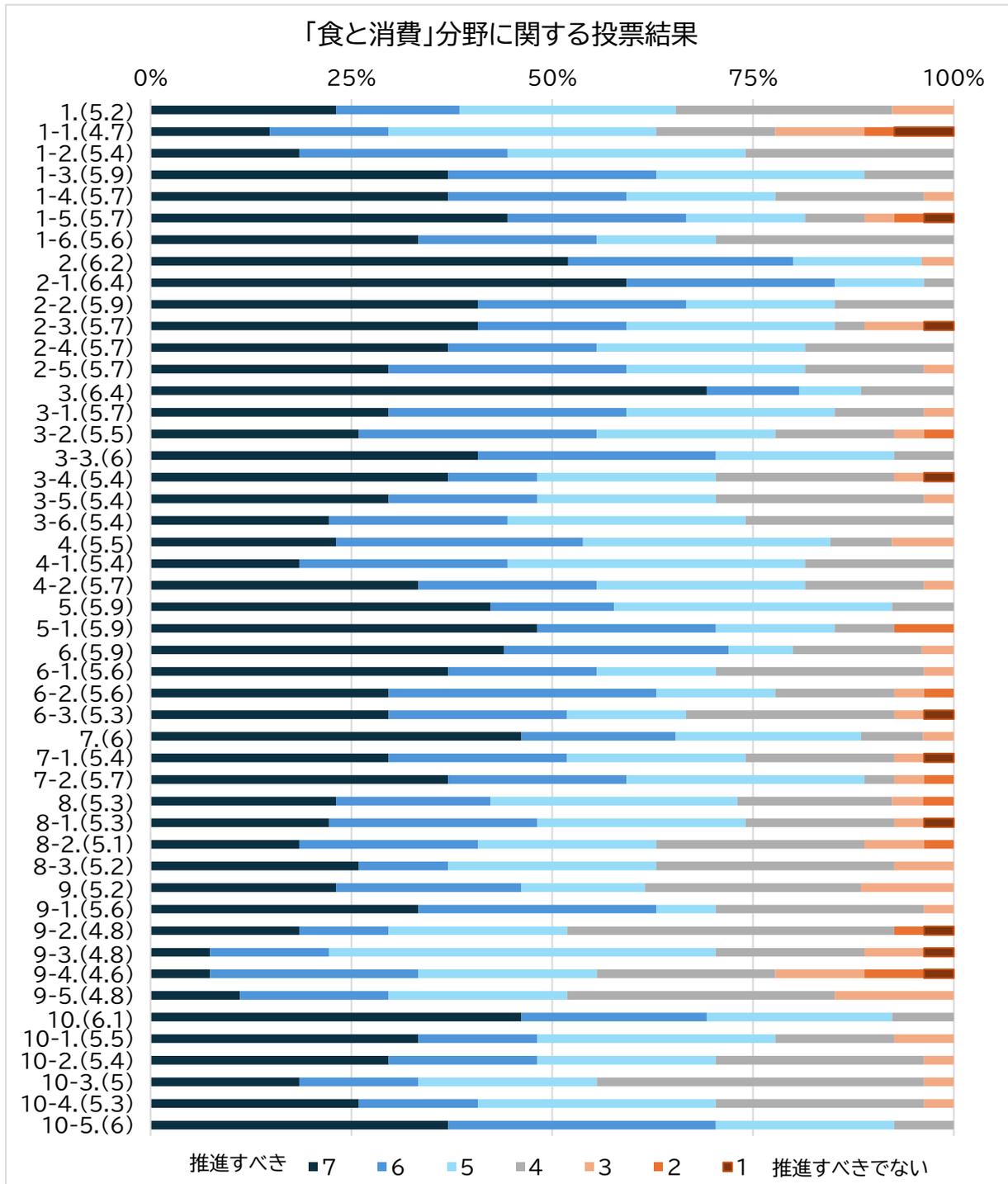
**10-5.地域組織と市は、団地などのごみの収集ルール(収集日や捨て方)を、外国人にもわかるように、やさしい日本語、イラスト、ピクトグラムなどで周知する**

※参考:投票の結果、半数の支持を得られなかった提案(1件)

(ごみを減らすに関連)

- f. 市は、プラスチックトレイを廃止し、紙トレイに変える条例を作る

【投票結果】 (n=27)



## 「地域資源」における提案

### ●森林資源の活用

#### 1. 秦野や神奈川県などの地元産木材を使った建築物の建設や利用を促進する

<そのために・・・>

##### 1-1. 市や事業者は、地元産木材を使った公共的な施設・インフラを増やす

- ・市は、公共施設など目立つ場所・よく人目につく建物で地元産木材を活用する
- ・市及び関連事業者は、協力して公共施設や学校、駅などの建築物の木質化/地元産木材の利用を促進する

##### 1-2. 市や事業者は、地元産木材の販売情報(どこでどんな種類の木材が買えるか等の一覧)を提供する

##### 1-3. 市は、建材用に木を切る方(林業従事者)に補助金制度を創設する

★市民は、家の新築やリフォーム時に秦野や神奈川県など地元産の建材を使う提案

→住まい7(地元産木材の活用)に統合

#### 2. 市民は、地元産の木を使った製品を積極的に使う(意識を持つ、購入する)ことで、端材や間伐材の活用に貢献する

<そのために・・・>

##### 2-1. 市民は、地元産のウッドチップ舗装を暮らしに生かす

- ・市民は、ウッドチップを知るためにウッドチップ舗装の道を歩いてみる
- ・市民は、庭に砂利やアスファルトの代わりにウッドチップを使う
- ・森林組合/林業者とホームセンターは、協働でウッドチップを流通・購入しやすくする
- ・市は、秦野市民にはウッドチップの購入に対して補助金制度を創設する

##### 2-2. 市や事業者、地域組織は、地元産の木を使った製品の開発・生産に取り組む

- ・市や地域組織等は、既存の木工業・作家にも配慮しつつ、箱根や小田原のように地元産の木を使った工芸品(箸や皿、食器など)をつくる木工系企業を誘致したり、地元アーティストを育成したりする
- ・そうした事業者は、地元産の木を使った多様な製品(つえ、積み木、家具、DIY キット、エアコン室外機用日よけ、遊具、キャンプグッズ等)を開発する
- ・市と森林組合、地域組織は、公園や里山に設置する遊具やベンチなどを地元産木材で作る
- ・市民及び産官学(かなテク西部、ふれあいセンター木工室、シルバー人材センター、ホームセンター工作室等)は、地元産の木やウッドチップなどの活用を増やすために協働する
- ・市は、学校の授業などでも地元産の木を活用する

##### 2-3. 市及び関連する事業者等は、地元産の木を使った製品のブランド化・特産化を図る

- ・市は地元産の木製品のブランド認証制度をさらに進める(製品の基準や登録を増やす)
- ・市や地域の事業者、組織等は、秦野ブランド認証を受けた製品を販売する秦野ショップを作る
- ・市は、出生時や長寿祝いの記念樹、木のおもちゃのプレゼントなどを通して秦野ブランドを市民に対して大いに広報し、親しみを醸成する

・市は卒業証書の筒も木製にする等、市民が秦野産の木製品に触れる機会を増やしていく

## 2-4. 事業者は、住まいの DIY に使える性能の良い木製断熱材を開発する

・市民は、将来的、長期的に技術開発の状況を見ながら、DIY で断熱リフォームをする際にはそのような木製断熱材を使う →住まいの1(自宅の断熱性能改善)と関連

## 3. 市民は、市内の間伐材を活用した地産地消のエネルギーを使う

<そのために…>

3-1 市や森林組合は、間伐材などから作られたウッドチップを使ってバイオマスエネルギーを供給する

3-2. 市やバイオマスエネルギーの供給者、公共施設の運営事業者などは、公共施設や準公共施設(山小屋を含む)での薪ストーブ/ペレットストーブやバイオマスボイラーなどのバイオマス利用を進める

3-3. 市民は、地元の間伐材などから作られた薪やウッドチップ、木質ペレット※を使った暖房利用に親しむ

※ペレットとは、間伐材、端材等の木材を粉碎したものを円筒状に固めたもの

## 4. 市民は、森林の保全活動に参加し、地域資源の活用を下支えする

<そのために…>

4-1. 市民は、植樹祭などに積極的に参加する

- ・市民は、植林だけでなく「伐る」活動にも参加する
- ・植林などに参加した市民は、参加体験の話/わくわく感をクチコミや SNS 等で知人に伝える
- ・市民はクチコミや SNS など、市は広報はだのなどで記念樹制度の知名度を上げる具体的な行動をとる

4-2. 森林組合や市は、それぞれ森林保全や CO2 削減の大切さをアピール/啓発する

- ・事業者・団体等は、植林→伐採までの(育林)イベントを定期開催する
- ・市は、市立学校の教育で木育を行う(小中学校くらいまで森へ行く行事を学校主体で行う)
- ・市民・団体等は共同で、山登りだけでなく森を気軽に楽しめる里山をつくる事業を展開する
- ・市は、植林などの推進も行う

## ●街なかの暑さ対策

## 5. 市民は、外出を涼しくする工夫をする

<そのために…>

5-1. 市民は、クールシェアスポットなどの涼しい場所で楽しむ

・市はクールシェアの場所への運営補助として OMOTAN コインが使えるようにする

5-2. 市と事業者は、市民が集まったり、時間を潰せたりするクールシェア/ウォームシェアの場所(商業施設、レジャー施設、魅力的な公共スペース等)を増やす

5-3. 市や事業者は、エリアを限定して歩道をアスファルトではなくウッドチップにする

・市はウッドチップを使った歩道のマップを作成・配布する

★クールシェア/ウォームシェアの場所の提案 ←住まい8(省エネ/エコライフ)から統合

★「移動中を涼しくする工夫」についてのマイボトルの持参や日陰づくりのための日傘やベビーカーのレンタルサービス →食と消費の 6-3(日傘等のレンタルサービス)と 9-4・10-2(マイボトル利用)に統合

## 6. 市民は、夏でも公園/外での遊びが可能な場所を利用する

<そのために…>

### 6-1. 市民は、涼しさの創出が実施されている施設や公園で遊ぶ/イベントに参加する

- ・事業者は、熱くならない遊具を開発する
- ・市は、温浴施設、プールや噴水施設を充実させる
- ・市は、地域資源を有効活用したイベントなどを開催する(例えば、水無川沿いで水をテーマにした涼しげなイベント、地下水ミストや噴水、ウッドチップを使った公園でのイベントなど)

### 6-2. 市や事業者は、地下水を用いたミストや噴水を設置する

- ・市は、駅周辺や公共施設周辺や公園にミストを設置

## 7. 街なかに日陰、木陰を増やす

<そのために…>

### 7-1. 市は、地元産木材・間伐材を使った東屋などを増やす

### 7-2. 事業者は、駐車場や駐輪場に太陽光パネル付の屋根を付ける

## ●農業の維持・継承

## 8. 市民は、農業の維持・継承に貢献する

<そのために…>

### 8-1. 市民は、自家菜園、市民農園などで野菜作りを楽しむ

- ・市は、農家/農業事業者と協力して、遊休農地などを市民農園のための農地として貸し出す
- ・市と事業者は、市民農園の情報を広める
- ・市は、広報はだのやホームページで低価格での農地譲渡などに関する情報を周知したり、貸農園をみんなが安心して使ったり見守ったりするためにトラブル対応窓口などを設置する等で後方支援を行う

### 8-2. 市民は、秦野市内の果物狩りに参加する

- ・農家/農業事業者は、市民向けの果物狩りなどに向けた作物を栽培する

### 8-3. 市は山の方の農地に行きやすいよう交通を整備する

### 8-4. 農家/農業事業者は、ドローンを使った農業や環境負荷の低い農業を実践する

- ・農家/農業事業者は、新設備を導入するためのクラウドファンディングを実施する

★市民は、地場野菜や農作物を購入する提案 →食と消費2(地元の食材を選ぶ)に統合

## ●未/低利用資源の利活用

## 9. 日頃の生活や事業の中で湧き水をもっと生かす

<そのために…>

### 9-1. 市や事業者は、秦野の名水を使ったウォーターサーバーを開発する

- ・事業者は、秦野の湧き水を活用できるよう、秦野名水のウォーターサーバーを開発する
- ・市は、秦野名水のウォーターサーバーを市の施設に置き、給水スポットを設ける

- ・事業者は、自分の事業所に秦野名水ウォーターサーバーを設置する
- ・市は、秦野名水のウォーターサーバーを設置し市民に開放してくれる事業者を募り、秦野名水が飲める給水スポットをたくさんつくる
- ・市民は、マイボトルを持ち歩き秦野の湧き水を日常的に利用する

### 9-2. 市民及び市は、秦野の湧き水や地下水の利用を日常的にも、イベントとしても推進する

- ・市民は自治会や居住地域にある湧水施設などで打ち水を実施する
- ・市は湧き水を利用した名水フェスなどをもっと広める

★市が行う駅前や公園のミストの提案 →6-2(地下水を用いたミストを設置)と関連

### 9-3. 事業者は事業に地下水を利用する（例：工場等での空調や製品等の冷却など）

## 10. 生ごみを資源として生かす

<そのために・・・>

### 10-1. 市は生ごみの資源化を政策として推進する

- ・市は生ごみ分別をごみカレンダーとごみの減量/資源化推進計画に追加する

### 10-2. 市と事業者は、バイオマスエネルギーとして生ごみを再利用できる施設を作る

- ・市は、生ごみからメタン発酵によるバイオマスエネルギーをつくる施設を設置/会社を誘致する
- ・産官学と市民は、協働で生ごみ処理や草木からバイオマスエネルギーをつくり市民に還元できる場所を創設する
- ・市民は、このようなバイオマスエネルギーが創出されたときには、バイオマスエネルギーの企業で働いて地域経済を支える

### 10-3. 地域や団体等は、市民が自宅や地域で作ったたい肥やメタン発酵後の残渣を農家や地域の他の人などに使ってもらえる仕組みを作る

- ・市・事業者・団体等は協働で、市民の協力・貢献度を可視化し、貢献度によってポイントや物で還元される制度を検討する
- ・市は、コミュニティ交通などを活用したコンポスト(たい肥)運搬の可能性を関係者と協議する

★市民や地域は生ごみを分別し、コンポスト化する提案 →食と消費8(生ごみ減らし、たい肥作りに参加)に統合

## 11. 市民は、熱エネルギーを利用した施設を活用する

<そのために・・・>

### 11-1. 市は、ごみ焼却施設「はだのクリーンセンター※」や名水はだの富士見の湯などの熱エネルギー利用施設における熱利用について PR する

※はだのクリーンセンターは、秦野市と伊勢原市で構成する一部事務組合「秦野市伊勢原市環境衛生組合」の所管です

- ・市は、ごみの減量や山歩きと名水はだの富士見の湯などの利用を組み合わせたインセンティブを設ける(例えば、ごみを減らしてポイントをもらって温泉に入れる、山歩きと温泉利用をセットにした OMOTAN ポイント付与(にぎわいづくり)など)

## 11-2. 市民は、市内の熱エネルギー利用施設を活用してコミュニティ活動を行う

## 12. 地域に降り注ぐ太陽光・太陽熱を資源として生かす

<そのために・・・>

### 12-1. 市民、事業者、市は、それぞれ住宅や施設の屋根などへの太陽光発電の導入を増やす

・公共施設や学校の屋根に太陽光パネルを設置する

★住宅に太陽光パネルを設置する提案 →住まい3(太陽光発電の導入)へ統合

### 12-2. 農業経営者は、ソーラーシェアリングを実施する

### 12-3. 市、事業者、市民は、地域で、地域電力につながり得る共同太陽光パネルを導入する

・市は、地域電力(はだの電気)になり得るような太陽光発電の会社の設立を働きかける。また、学校や公共施設への太陽光パネルの設置を増やすなど、秦野市内での太陽光発電のさらなる普及を進める

・市、市民、事業者は、地域電力や共同太陽光パネル設置の目的、ゾーニング※(太陽光パネルの設置を促進するところ、設置を推進すべきでないところ等)の設定、費用回収や余剰電力の活用方法に関する計画などを話し合う場を作り、参加する

・事業者は共同出資のネットワークを作り、秦野産の電力を使うようにする

・市や事業者は、そのような仕組みができたときには、市民利用の発電ポテンシャルなど、市民が参画する判断材料になるような情報を共有する。また再エネ電源契約者への税金の減免やポイント還元(OMOTAN ポイント)、脱炭素配慮プランの普及率を地域で競う仕組みなどを構築する

・市民は市や事業者が提供する情報に基づき、地域電力の再エネ電源への切り替えを検討し、積極的に参画する

※ゾーニングは、地球温暖化対策推進法第21条(2021年改正)で、市町村は「地域脱炭素化促進事業の対象となる区域(促進区域)」を定めるよう努めるとされています。

### 12-4. 市民、事業者、市は、それぞれ太陽熱の利用を検討する

## 13. 地域資源を生かした産品を通じた低炭素化と地域経済の活性化を図る

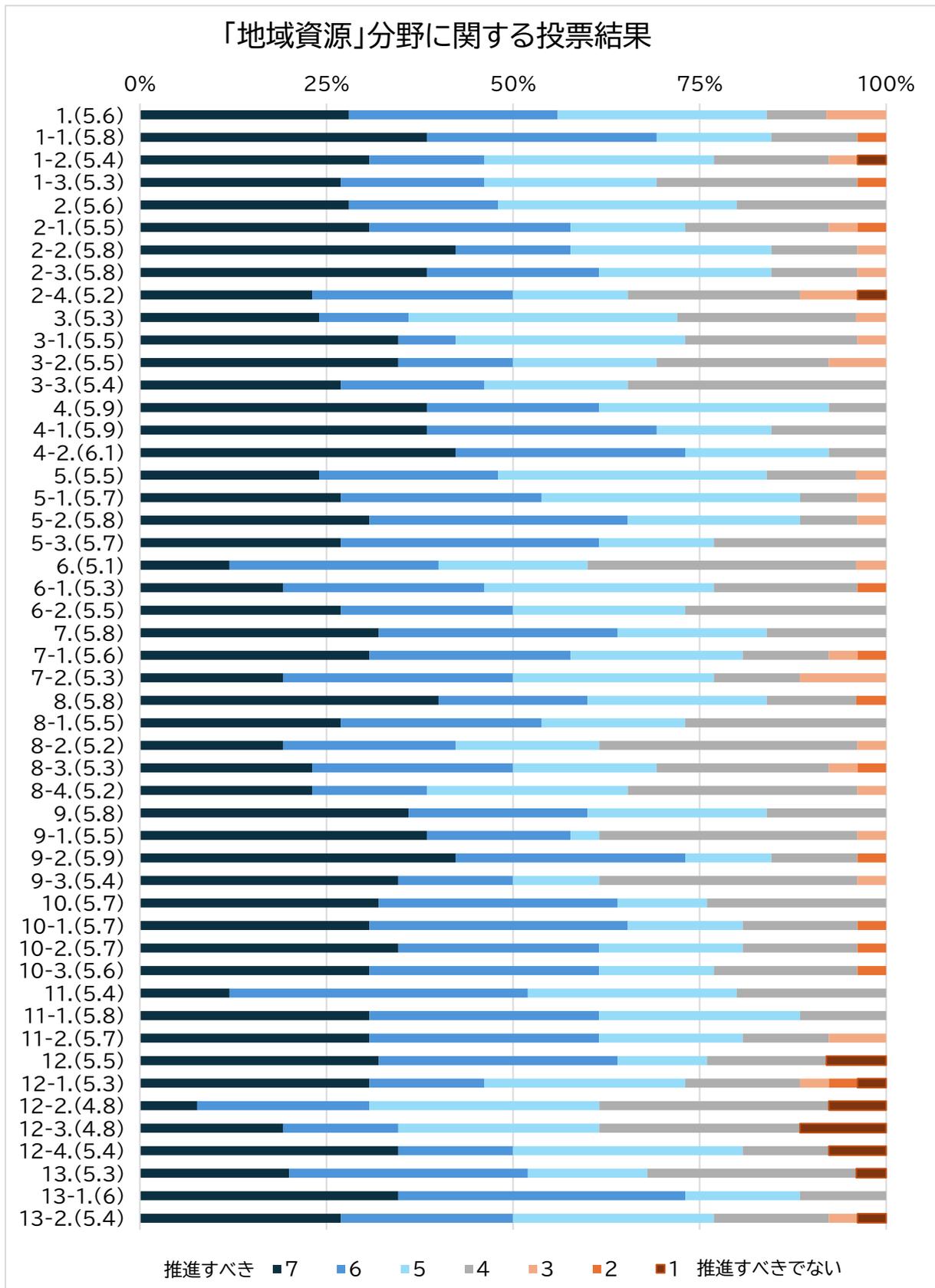
<そのために・・・>

### 13-1. 地下水を活用した産品(豆腐、もやし、酒など)を生産・ブランド化する

### 13-2. 観光(エコツーリズム)として OMOTAN ガイドツアーなどをブランド化する

★木工製品の特産品化の提案 →2-3(地元産の木を使った製品のブランド化)と関連

【投票結果】 (n=26)



### Ⅲ. 脱炭素はだの市民会議の概要

「脱炭素はだの市民会議」は、神奈川県 of 2025 年度施策「若年者・地域向け脱炭素普及啓発事業」の一環として行われました。

脱炭素社会づくりは、多くの分野・セクターが関わる非常に広い裾野を持った課題であり、多様で異なる考え方も受け入れた議論を必要とします。このため、市民会議を公平・公正に企画・運営していくことが何よりも重要であると考え、脱炭素はだの市民会議実行委員会を設置し、秦野市との共催でこの会議を開催しました。そして 2025 年 7 月から 11 月まで全 4 回の会議で議論を重ね、脱炭素社会の実現に向けた具体的な取組みの市民提案を取りまとめました。

#### 1. 脱炭素はだの市民会議の推進体制

主 催：脱炭素はだの市民会議実行委員会、秦野市  
事務局：一般社団法人環境政策対話研究所（IDEP）

#### 2. 脱炭素はだの市民会議実行委員会

秦野市と共同で脱炭素はだの市民会議を共催し、参加者、会議進行、結果の集約等の市民会議の企画・実施に関わる重要事項を協議・決定し、市民会議を円滑に運営していくことを目的として、「脱炭素はだの市民会議実行委員会」を設置しました。実行委員会は、気候変動・脱炭素、まちづくり、参加・熟議等の分野の専門家、地域組織、秦野市民の 6 名から構成されました。

表 2-1 脱炭素はだの市民会議実行委員会（敬称略）

	氏名	所属等
委員長	勝田 悟	東海大学大学院人間環境学研究科教授
副委員長	大熊一寛	東海大学政治経済学部教授
委員	大塚彩美	東京大学未来ビジョン研究センター特任助教
	石丸昌義	元秦野市環境審議会委員（市民公募）
	高橋大助	NPO 法人 秦野にぎわい創造まちづくり理事長
	吉田秋恵	湘南生活クラブ生活協同組合理事

#### 3. 市民会議の目的

この会議では、参加市民が専門家による情報提供やアドバイスを受けながら、脱炭素社会の実現を目標に、市民の取組みや地域社会において解決していくべき課題などについて対話を重ね、その結果を「市民提案」として取りまとめました。この「市民提案」は、秦野市の「地球温暖化対策実行計画」の中間見直しの参考とされ、今後の脱炭素政策に生かされます。また、市民提案は地域社会にも発信し、地域における取組みにつながるよう、フォローアップ活動に発展していくことを期待しています。

#### 4. 市民会議の参加者

無作為抽出によって選ばれた約2,500名（16歳以上、75歳未満）の市民に対し、郵送で参加を呼びかけたところ、383名から回答をいただきました。その内参加の意思表示をいただいた79名を年齢・性別・居住地等に偏りがないように調整して、秦野市の縮図にすることを念頭に45名の市民を慎重に選び、市民会議への参加者を確定しました。（その後、会議初日に来られた1名を、選外でしたが追加、後日2名が辞退。）

男女・・・男性23名、女性22名

居住地域・・・北部（北地区、東地区）5名／東部（大根地区、鶴巻地区）12名／中央部（本町地区、南地区）16名／西部（上地区、西地区）12名

年齢構成・・・70歳代4名／60歳代6名／50歳代8名／40歳代8名  
30歳代8名／20歳代7名／10歳代4名

#### 5. 市民会議の進行

会場：上智大学短期大学部（秦野キャンパス）4号棟の教室

日程		内容
第1回	7月26日(土) 13:00-17:00	・顔合わせ、オリエンテーション ・2050年こんな秦野であってほしい(グループワーク) ・気候変動とカーボンニュートラル、秦野市の脱炭素への取組みについて情報提供 ・ありたい未来の秦野×脱炭素のつながりを議論 ・脱炭素アクションへの案内 *1
		・脱炭素アクションにチャレンジ *1
第2回	9月6日(土) 13:00-17:00	・脱炭素アクションの経験の感想、気づき等を報告・共有 ・カーボンフットプリントを通して考える社会の脱炭素について情報提供 ・秦野市に関する基礎情報(地域特性、交通、地域資源など) ・脱炭素アクションを進める時の期待と課題(4つのテーマ) *2
		・脱炭素アクションにチャレンジ *1
第3回	10月11日(土) 10:00-17:00	・4つのテーマごとに専門家等による情報提供を聞き、質疑応答 ・各自がテーマを選んで、市民提案のベースとなるアイデアについて、グループワークを行う
		・グループワークの結果の取りまとめと市民提案の素案づくり *3
第4回	11月22日(土) 13:00-17:00	・市民提案の素案のブラッシュアップと最終化 ・ありたい未来の秦野×脱炭素、市民提案とのつながりを考える
(市民会議終了後)		・市民提案の完成 *4 ・市民提案への投票(12月13日～) ・市民提案を秦野市長に手交、記者発表(1月15日)
		・ふりかえりアンケートの実施(12月22日～) ・フォローアップ会議(1月18日):市民会議のふりかえり・市民提案を実現していくための取組みについての話し合い

\*1 第1回と第2回の間、第2回と第3回の間、参加市民が「脱炭素アクション」に取り組むチャレンジを行った。これは「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢:カーボンフットプリントと削減データブック」(小出ら 2021)に示されたアクションのうち20件と秦野市の地域特性等を反映した秦野スペシャルとして実行委員会が提案した5件を加えた25件のアクションから、参加市民が任意に選んで取り組むもので、その結果と感想を市民会議において共有した。

- \*2 第1回のグループワークを基に、脱炭素アクションのテーマとして、「住まい」、「移動・交通」、「食と消費」、「地域資源」の4つが挙げられた。
- \*3 第3回市民会議の後に、参加市民の有志も参加する「市民によるチェックの会」において、第3回のグループワークの結果をもとにグループファシリテーターが作成した記録を、分野ごとに事務局・実行委員・専門家のチームで整理したものを確認する作業を行った(11月4日(火)・オンライン・3名参加)。
- \*4 第4回市民会議終了後に、実行委員会と事務局において市民提案の完成のための作業を行い、再編集した案を「市民によるチェックの会 2」で確認した(12月3日(水)・オンライン・3名参加)。ここで参加者から出された意見を反映した最終提案を参加市民全員に送付し、異論や質問がないことを確認して市民提案を完成させるというプロセスを経た。

## 6. 市民会議を支えた人々

### 【専門家・アドバイザー・情報提供者】(敬称略)

- 「気候変動とカーボンニュートラル」：大熊一寛(東海大学、実行委員会委員)
- 「秦野市の脱炭素政策への取組み」：野尻和秀(秦野市環境共生課)
- 「脱炭素アクションにチャレンジ」
  - ：大塚彩美(東京大学未来ビジョン研究センター、実行委員会委員)
- 「カーボンフットプリント(CFP)を通して考える社会の脱炭素」
  - ：平山世志衣(NPO法人横浜LCA環境教育研究会)
- 「秦野市に関する基礎情報」：大塚彩美(東京大学、実行委員会委員)
- 「住まいと暮らし方で脱炭素を進めるには」：山本佳嗣(東京工芸大学)
- 「森と人をつなぐ秦野の家づくり」：岩澤賢太郎(株式会社コラム建設)
- 「0円ソーラーについて」：松田泰弘(神奈川県脱炭素戦略本部室)
- 「秦野市産木材の利用補助について」：近松将和(秦野市環境共生課)
- 「食と消費で温室効果ガス(GHG)を減らすには？」
  - ：村上千里(IDEP)、吉田秋恵(湘南生活クラブ生活協同組合、実行委員会委員)
- 「脱炭素はだのの実現に向けて「移動」問題を考える」：柳下正治(IDEP)
- 「地域資源の活用で目指す脱炭素な地域づくり」
  - ：兼松祐一郎(東京大学)、大塚彩美(東京大学、実行委員会委員)
- 「秦野市の水とみどりの取組み」近松将和(秦野市環境共生課)

### 【ファシリテーター】

- 全体ファシリテーター：岩崎茜(東京大学大学院農学生命科学研究科 助教)
- グループファシリテーター：朝尾直太、有賀一広、稲田あや、稲田素子、片岡博、川瀬裕子、越地浩氣、小谷真司、小林綾子、葉石真澄、平野理恵、山内健、加藤木ひとみ、石井徹

### 【記録】 石井徹、石野耕也

### 【実行委員会事務局】 石野耕也、村上千里、山本かおり

### 【会議運営サポート】 池田実生、石丸昌義、石渡龍翔、植木陽子、遠藤はな、岡安眞弓、玄道優子、高橋淳子、高橋陸空斗、田邊学、見目悦男、土田智之、原悠泰、三河純子、宮本隆成、吉田秋恵、秦野市環境産業部環境共生課職員

### 【ベビーシッター等】 株式会社コーチャーズ

問い合わせ先

脱炭素はだの市民会議 実行委員会事務局

一般社団法人 環境政策対話研究所

住所： 〒215-0021 川崎市麻生区百合丘 1-18-5 アビタシオン百合ヶ丘 304

電話： 044-387-0116                      メール： [office@inst-dep.com](mailto:office@inst-dep.com)

ホームページ： <http://inst-dep.com>

担当： 山本かおり